

續松葉集第二 名所部 (題簽)

續松葉集第二 (内題)

也

▲石田小野 柞原  
笠取山鹿  
山吹尾 梅霧  
うつら 夕立里  
▲里川くたら野  
春雨 芹苗代  
牛子

山城  
山科

あるしにや侘ておらまし梅花見てのみいかてやましなの里

八三

▲神の代  
君か千世

同  
八瀬

柴人のをもきのみかは五月雨に渡りわつらふ八瀬の山河

八四

▲宇治はし姫  
花のしからみ

同  
八坂里

古に法のちからを顯はして八坂の寺の軒そすくなる

八五

▲鷹岩枕  
山向里 霞花

同  
山吹瀬

咲花も夜の間の風に頼まれす山吹の瀬や替行らん

八六

▲石清水 時鳥松  
田鶴 在明の月

同  
八幡

八幡山さか行道はさらす共身を安かれとこゝに祈らむ

八七

▲岩蔵 長谷  
岩つゝし 玉篠

同  
八塩岡

八塩の岡の紅葉を見にまかりて

八八

▲紅葉 立田姫  
時雨 露

同  
山吹尾

名にこそはやしほの岡のもみち葉もかゝるへしとは思はさりしを

八九

▲奈良都 櫻  
十市里 初瀬

大和  
山吹川

夏の夜も山吹のおの小男鹿はいはぬ色にや妻を戀らん

九〇

▲風戀  
三十あまり二の

同  
山階寺

春くれていつくに帰る梓弓やまと川より花そ流るゝ

九一

▲伊勢 乙女  
すかた 涙ニオ

伊勢  
山邊御井

此寺にえにしむすはゝ後の世に誰も妙なる姿そなへん」オ

九二

▲神風 納涼

山邊御井

山のへの御るの清きはるる塵もいせの神風吹はらふらし

九三

▲里渡竹川 苗代時鳥月	▲川浦かほ標 上野鶴杉みつ垣	▲川上野狩人納涼 苗代鵬五月雨	▲里甲斐根 山梨花月	▲八千代のかけ とかみか原	▲霞足柄時鳥 卯花呼子鳥	▲はくし雪 近江	▲近江海田鶴 千鳥磯船	▲霞春風鰯 五月雨時鳥	▲川霧 波わきかへる	▲里早苗五月雨 天の下	▲いかほろ 立のしニウ	▲老の世 年を渡りて	▲濱千鳥松 海士小船浪	▲浅香 戀しき人の影	▲淡茅萩葛 露霜時雨虫	▲麻雪霰鹿 春雨宿かる	▲妹 いもか袖	▲もゝたらぬ 雲間	▲白つゝし みすの山風	▲櫻咲
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
山田原	矢矧里	八橋	山梨岡	八松	八重山	八十湊	山井	八嶋	安良村	八坂井	山菅橋	八十嶋	山井	矢田野	戴浪里	八上山	八十須美坂	屋上		

郭公山田の原の杉村や過かてにしもこゝら鳴らむ  
 一夜のみ枕をかはずものゝふのやはきの里の名残やはなき  
 世を渡る人の心は八橋のくもてにかよふ年の暮かな  
 あふさるさ心とまらぬ人はあらし花咲匂ふ山なしの岡  
 草も木も霜にやつるゝ八松の陰のみ独猶緑にて  
 足柄の關吹風にともなひて雲の八重山わくる旅人  
 近江のや八十の湊の吹風に田鶴か鳴音も磯傳ふらん  
 山家水  
 住馴てとても結はん山の井に心の水のにこらすもかな  
 東路の室かと思ふ田上や八しまに立る水の烟は  
 返すより刈まで民のことわさは安らの村のやすけくもなし  
 戀天象  
 歎かしなやさかのゐてののしならは立とも空に消ん我名をニウ  
 寄橋戀  
 と絶なは作りかへてよ妹かりにやます通はん山すけの橋  
 行方に聲し絶ねは八十嶋の浦こく船の友ちとり哉  
 井水  
 いとゝ敷冬は氷のとちろひて淺く成行山の井の水  
 虫の聲いたくなかれそ矢田の野に寒るは秋の月の霜夜を  
 春雨に花の俤立そひて都忘れぬやふなみの里  
 雲晴るやかみの山に月出て紅葉やともに照渡るらん  
 家居するやそすみ坂のさまゝにかはる心や人の世の中  
 ますらおかいるよりはやし中ゝにやかみの櫻咲て散まは

▲瀬火 万代 霞し 天地のかため 國	▲霧 鹿 紅葉 霧 霜 草木 弓はり月	▲沖つ 嶋 鴨 舟	▲崎守 し まち 酒	▲かみし 三 三 三 人の心そ 涼し	▲長閑き 池	▲春の 日	▲里 宇治川 霞舟 網代木 霧霞	▲藤衣 水魚 驚 摘衣 手作の布	▲霧時 雨 霽 衣 霞 五月 雨 露 葵 月	▲山宮 大井川 遊 紅葉 月 神 遊	▲時雨 霽 玉 垣 氷室 霞 子 規	▲岩室 千代 雨 我戀 松 時 雨	▲都にし しろ 露 玉 大内 若菜	▲大内 若菜 露 霧 薄 雪 露	▲萩原 白菅 鹿 霧 時 雨 月	▲宮柱 霧の子 萩 時 雨 紅葉	▲秋風 紅葉 嶋の宮	▲はなち 鳥 雪 天つ御門 雪	▲大口 衣手 あすか風	▲みをつくし 鷺 水 あやめ
倭 嶋	伊与 矢野 神山	筑前 也良能 崎	同 安 野	肥後 八代 池	豊前 八双 濱		山城 槇 嶋	同 槇 雄 山	同 松 尾	同 松 崎	同 真 葛 原	同 真 袖 原	大和 真 野	同 真 弓 岡	同 勾 乃 池	同 真 神 原	同 益 田 池			

霧間より明石の浦を行舟のほのくみゆる倭嶋ねは  
棹鹿の起ふしなるゝ聲す也矢野の神山紅葉しぬらん  
やらの崎こきたむ船はなれも又おなし波路や分て来ぬらん  
世中も思へはやすし安の野に作れる酒をのむ心には三三  
陰ふかき岩根の松の年古て月も水草にやつ代の池  
人やりの旅ならはさてもいかせんやひろの濱の道のなかくてを

満

いやしきも心有けに雪の夜の月に棹さす槇の嶋船  
霧晴ぬ世をうち川をよそにして槇のお山に澄る月影  
あふひ草おなし二葉の種とてや松の尾山に生初めけん  
松か崎むかしの跡に散花の雪や氷室の名残なるらむ  
うき事を都の外も吹風に真葛か原の恨やはなき  
摘若菜 打はらふま袖か原の淡雪にたまりかたみの若なをそ摘  
朝立て旅行人のなくさめにたか白菅のまのゝ萩原  
飛帰りとくらに来ともよしや其まゆみの岡もかりの此世に  
世間はまかりの池の放ち鳥うきをはなれぬ音のみ鳴らん三三  
春の来る道としらるゝ大きくちのまかみの原の雪の消間は  
五月雨にみかしますたの池に生るあやめは波のそこと知れす





▲深草 紫の雲 同 舟岡  
 ▲春の日 柴刈民 同 伏見  
 ▲形原有明の月 同 深草  
 ▲袖垣 葵 同 深草  
 ▲大御門 はにやす 同 藤森  
 ▲松の藤井 もとかしは 同 藤森  
 ▲忘水 春雨 櫻 同 藤生野  
 ▲泡雪 村雨 鹿 同 藤生野  
 ▲石上 村雨 鹿 同 藤生野  
 ▲川早田 山高橋道 同 二葉山  
 ▲野社 都二本の杉 大和 二葉山  
 ▲小篠原 鹿三輪山 同 藤井原  
 ▲柳堤 時鳥 五月雨 同 古柄小野  
 ▲池の堤 水西 同 古柄小野  
 ▲大坂 紅葉 時雨 同 布留  
 ▲浪柴の野 浅茅 同 布留  
 ▲時雨 雪月 秋風 同 布留  
 ▲濱淵 鵜 鶴 同 笛吹池  
 ▲松尾 枕 衛 櫻 同 二上山  
 ▲乙女子 汝風 同 二上山  
 ▲のりう かふなり 同 二上山  
 ▲聲を はにあけて 同 吉魚張  
 ▲よす まし 同 吉魚張  
 ▲濁沖 玉筒 海士み 和泉 吹飯浦  
 ▲霞松 始ます 鏡雪 和泉 吹飯浦  
 ▲かたし 貝 霞月 振津 船寺  
 ▲塩屋 御塩殿 伊勢 二見浦  
 ▲いしな とり 万代 同 二見浦  
 ▲瀬に よる 竹 同 二見浦  
 ▲山 紫の色目 同 二見浦  
 ▲若な さき草 松 同 二見浦  
 ▲里月 虫はこ鳥 同 二見浦  
 ▲炸雪 時鳥 霞 萩 同 二見浦  
 ▲くれは とり 杓竹 同 二見浦  
 ▲芝山 高根山 御 同 二見浦  
 ▲嵩雪 鳴沢 霞 煙 同 二見浦  
 ▲柴清 見 五月雨 月 同 二見浦  
 ▲田子浦 桑子 戀 同 二見浦  
 ▲みつくき 同 二見浦  
 ▲子規 紅葉 時雨 同 二見浦

女郎花色かにそみて船岡の近き烟もよそに杜みれ  
 諸共にふしみの里をよそにしていつしか替る契成らん  
 釋中開菊  
 いつくともおほつかなしや秋霧の深草山に鶉啼也  
 今咲もゆかり成らし藤の杜ちれば構に色をゆつりて  
 述懐  
 藤ふ野の花咲時にはあはぬ身は柴刈しきて庵入せんかも  
 たくひなく匂ふ木もなとまさらまし時にあふひの二葉山には  
 昔聞藤井か原の宮所跡こそなけれ花はさけとも  
 我身世にふるからをのゝ櫻花今幾春の詠をやせん  
 神祇  
 言の葉の色もかはらて徒に幾年月を布留の神杉  
 笛吹の池の水もかつ解て波の聲する春のとなりにな  
 浦嶋か箱ならて月の明ぬれば雲そ棚引ふたかみの山  
 ふなはりのなつみの上の村雲や宿の軒端に時雨きぬらん  
 空晴る月もふけいの浦さひて霜夜もしるく衛鳴也  
 舟寺のをしへもさそな法の道浮世の人を渡す誓ひは  
 かくしつゝ消や果まし玉筒あはぬふたみの恨ある身は  
 笛川の瀬の聲清き夕暮に吹合せてや帰る草かり  
 紫の色にはあらて藤潟の松のしつえにかゝるしらなみ  
 開時鳥  
 郭公今一聲を待ほとに二むら山の名にぞ鳴ける  
 わか思ひかくとしらせん烟立ふしを都にうつしてしかな

九七二  
九七三  
九七四  
九七五  
九七六  
九七七  
九七八  
九七九  
九八〇  
九八一  
九八二  
九八三  
九八四  
九八五  
九八六  
九八七  
九八八  
九八九  
九九〇

九七二  
九七三  
九七四  
九七五  
九七六  
九七七  
九七八  
九七九  
九八〇  
九八一  
九八二  
九八三  
九八四  
九八五  
九八六  
九八七  
九八八  
九八九  
九九〇







▲角かの濱 都鳥 同 衣 関  
 ▲鴈月 雪の塩風 加賀  
 ▲杜からにしき 越 越 白根  
 ▲時雨 秋の夕暮 越 越 大山  
 ▲雪 高濱 同 越 海  
 ▲里 鴈 雪松 同  
 ▲柴車 檜原 同  
 ▲たてをく 梓月 セウ  
 ▲しらへのこゑ 同 木葉里  
 ▲蟬の聲 越後  
 ▲石見 瀧 越路浦  
 ▲よる波のくたけて 同 越 山  
 ▲子規 草の枕 同  
 ▲友千鳥 濱の松 但馬  
 ▲風 霞 船和田の原 石見  
 ▲海人 霧 船和田の原 石見  
 ▲木末のひま 古登多加礪  
 ▲こよひの月 播磨  
 ▲川 我せこ 杜鵑 備前  
 ▲きならの里 國府渡  
 ▲わきも子 遠の海 備前  
 ▲かつく鳥 玉かつき 紀伊  
 ▲夜をかさね 児 嶋  
 ▲鳥のそらね 小 池  
 ▲白波のよりくる糸 同  
 ▲風にしらふる 同  
 ▲嶋 玉の緒 汀 筑前  
 ▲袖 目あられ 子難海  
 ▲夜寒 秋風 肥前  
 ▲谷ふところ 妹 心 関  
 ▲若かへての紅葉 日向  
 ▲花 松 未動  
 ▲葛城 豊等の寺 未動  
 ▲月影 むこの泊 衣 浦  
 ▲舟人 同 子持山  
 ▲つぼの石ふみ 同  
 ▲月千嶋 春の花  
 ▲岩屋 舟 鶯  
 ▲あしかをねらふ 八十嶋 つかる

旅ねしてかへす衣の闊なれや思ふ都の夢もとをさす  
 寒とをる越のしらねの春風は袖にたまらぬ雪かと思ふ  
 打はらふ袂はす間も休らはて又ふゝきする越の大山  
 鴈鳴て越の海つらはるかにも霧立帰る浪や分らん  
 時雨ふる音計して秋風にぬれぬ木葉の里に積れる  
 しのかこし幾夕暮の浪風も越路の浦や限成らん  
 雪中旅行  
 降積るこしの山路をきてみれば分にし方の雪は雪かはセウ  
 今朝よりや秋のしらへに替るらむ琴引山の松風のことゑ  
 もれ安き世には何をか石見瀉ことたか礪の浪のかけても  
 おほつかないつこときけは郭公こふの渡りの雲に鳴也  
 五月雨にみれば浪間もかき曇り雲ある方や児嶋成らん  
 海の上も小池の内も照月や其さま／＼に影やとすらん  
 むら雨の聲にをくれす時鳥こちこせ山に鳴渡るらむ  
 雲晴る夕日の色も紅のこかたの海の興つしほ風  
 おほつかたとへとこたへす絶間なく心の闊を見る主や誰  
 治れる世をもしるてふ琴引の松ふく風も枝をならさて  
 するへなくいかて拾はん波あらき衣の浦に玉は有とも  
 年ごとに緑立そふこもち山子もたる松の末やさかへん

一〇三六  
 一〇三七  
 一〇三八  
 一〇三九  
 一〇四〇  
 一〇四一  
 一〇四二  
 一〇四三  
 一〇四四  
 一〇四五  
 一〇四六  
 一〇四七  
 一〇四八  
 一〇四九  
 一〇五〇  
 一〇五一  
 一〇五二  
 一〇五三  
 一〇五四  
 一〇五五  
 一〇五六  
 一〇五七  
 一〇五八  
 一〇五九  
 一〇六〇  
 一〇六一  
 一〇六二  
 一〇六三

▲荒小田にほり  
まかせつゝ

▲玉坂雪  
しららの濱

▲月夜  
難波の寺

▲西の門出  
額のめい

▲関山我せこ  
八雲たつ板間  
月袖の別

大和

榎葉井

撰津

得名津

陸奥

夷

江

一六〇

えのは井のあたりをみれば風さそふ柳の露もしつく白玉

住吉の松に絶せぬ風ふけはえな津に浪のよせぬ間そなき

えそならはこさふくとしも人や見ん霧立渡る秋の夜の月

露間月

手

色くの種をうへなめ生そふはたか手すさひの池の水草

みればはや山は霧こそ降にけれてしま河原の寒き朝けに

さやかなる外の月夜は中くにくらきてくらの森の下陰

世の人の何かあらそふ津の国のなにはの寺もおなし御法を

旅人の立そとゝまる秋のよの月や出雲のてまの関もり

杜月

同

同

同

同

阿

木くの葉も今はあらしの山風や曇らぬ月の雲を吹らん

龍のやのあこにの原の涼しさは秋より後の風やふくらむ

吹通ふ音も高おに咲花のあたこの山のみねの春かせ

ひなひたるあかたのるとゝ名にはいへと都にはちぬ敷冬の花

人ことにあふく縣の宮所月の光もますかゝみかな

▲寺有明月紅葉  
麓里猿大井河  
鵜飼舟岸杉庵霧

▲よふこ鳥となせ  
うちの渡龍のや

▲山科石田の森へ  
山原しきみか原

▲時雨花つむ人  
雪枝折氷霞

▲こなき杜若  
鴈山吹蛙花

▲ます鏡月  
逢坂烟たつ

▲霞小松東路  
駒みまぐさ螢

▲さびりおほき身  
みつわくむ月

▲月千代の坂  
山御幸春風

▲花をくら郭公  
秋花松虫月

▲衣うつ流院  
霜霞夕立月

▲松隈もみち時雨  
池月霧鳥羽田

▲川石橋千鳥鴈  
松の嵐鹿なく

山城

手須佐美池

撰津

豊嶋

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

一五二  
一五三  
一五四  
一五五  
一五六

一四七  
一四八  
一四九  
一五〇  
一五一

一四四  
一四五  
一四六

御萩七瀬淀淵 同 栗田山  
 月雪霧衣うつ 同 飛鳥井  
 忘草時鳥月瀧 同 阿弥陀嶺  
 水神時雨 同 有栖川  
 鹿嶋松虫夏草 同 朝日山  
 秋風しら露元オ 同 朝日山  
 霧女郎花時鳥 同 朝日山  
 片岡霞鶯虫 同 朝日山  
 鷄春雨忘水 同 朝日山  
 萩もす雪下露 同 朝日山  
 蘇月昔下露 同 朝日山  
 真弓忘水 同 朝日山  
 日本大御門 同 朝日山  
 やしろの神 同 朝日山  
 吹笛 同 朝日山  
 川山巻向白ゆふ 同 朝日山  
 神櫻ひはら春風 同 朝日山  
 霞風水紅葉 同 朝日山  
 雪行水ゆつき 同 朝日山  
 さね木の花 同 朝日山  
 嶺あらし 同 朝日山  
 宮川小野宮柱 同 朝日山  
 万代三舟山薄萩 同 朝日山  
 呼子鳥菅蛙標 同 朝日山  
 衣たにふたつ有 同 朝日山  
 せは 同 朝日山  
 紅葉霞たつ 同 朝日山  
 吉野花白浪 同 朝日山  
 雪はた薄草枕 同 朝日山  
 宿る旅人 同 朝日山  
 嶺山吉野苔延 同 朝日山  
 雪佐保姫郭公 同 朝日山  
 松村立花月時雨 同 朝日山  
 神なひ女郎花 同 朝日山  
 萩霜の下草 同 朝日山  
 露元ウ 同 朝日山  
 山里いこま霧 同 朝日山  
 杉薄衣初雪 同 朝日山  
 露糸薄秋風 同 朝日山  
 萩女郎花 同 朝日山  
 玉川 同 朝日山  
 阿騎大野 同 朝日山

天雲のあはたつ山に住人は浮世をよそになりも行哉  
 雪かよ見もひも寒き飛鳥井に移るこよひの月影もよし  
 月のすむあみたか嶺は紫の雲も中くさはりならまし  
 よしやたゝ流るゝ水のありす川あり住果ん此世ならねは  
 初時雨また染あへぬ紅葉ゝにさして色そふ朝日山かな  
 秋鹿  
 草木ならぬ人の心もしほれけり鹿の音かよふ秋の山かせ  
 夏月  
 淵は瀬にかはる間もなく明にけり飛鳥の川の夏のよの月  
 白妙の雲の衣も五月雨はほすひまやなき天のかく山  
 色ありと見えて消ぬる世中はあたの大野ゝ萩の上の露元オ  
 若菜をもあすはつまゝし降雨の朝の原の雪やけぬらん  
 あつま野のさやく霜夜のさゝ枕結ふもよしや起うからねは  
 春の色のいたりいたるや大和なる青かく山のふかき緑は  
 そことなくすたきて聲をあげまきの遊びの岡に笛や吹らん  
 まれに聞あなしの山の郭公茂き檜原の奥ならてなけ  
 あは山のさなきの花のさなきたにもろき梢に嵐吹なり  
 花薄生る秋津の宮人のむかししらるゝ袖のおもかけ  
 立かくす霞の衣はる風にそをたにはらふあかはたの山  
 七夕も春渡らなん天河花のさかりをみよし野の山  
 あきの野に薄をしなみ降雪と見ゆるは秋の月の影哉

同 同 同 同 秋 同 同 同 同 同 同 撰津 同 和泉 河内 同 同 同

味野原 芥川 上下竹葉野 味經野 秋野濱 松露原 芦若浦 阿部嶋 芦間池 淺香浦 蘆屋 有馬山 蟻通 荒山 天河 安多師野 淺小竹原 青根

1076  
1077  
1078  
1079  
1080  
1081  
1082  
1083  
1084  
1085  
1086  
1087  
1088  
1089  
1090  
1091  
1092  
1093  
1094

▲神風宮遷し 波の花	伊賀
▲影長閑なる代	哀其杜
▲時雨山のうつろひ	伊勢
▲紅葉雲晴ぬ	朝熊
▲鳴引鯛海土雪	同
▲もしは木月霞	朝日宮
▲網引よる波	同
▲磯に咲あしろの菊	朝香山
▲波の下草水魚	同
▲入江沖つなみ月	阿古木浦
▲五百里かくせる三ッ	同
▲佐堤の崎菅	同
▲郡春風霞花	網代濱
▲篠分る下露岩	同
▲夏衣朝けの水	網児之山
▲あはらけの嶋は	同
▲七嶋蟹	朝明山
▲伊勢嶋月	同
▲浦風船こく	阿波良氣嶋
▲河原湊田松原	同
▲鈴鹿山霞神風	同
▲千鳥霧月み渡	芦浦
▲浦里片糸舟時雨	同
▲わらはへ露霜貝	同
▲あま夏草呼子鳥	安濃
▲子規蟬千鳥つ花	尾張
▲五月闇時鳥螢	阿波手杜
▲あたりの雲	参河
▲たなゝし小船	雨山
▲天つ空	同
▲霞ふる川柳	安禮之崎
▲春雨	遠江
▲水の泡	天中川
▲つねなき世	同
▲市田嶋山田鶴鷹	吾跡河
▲はこつむ早苗	同
▲村雨時鳥田面	駿河
▲御坂關嶺箱根てし	遇沢
▲舟木田鶴杉栗	同
▲小苔峠紅葉駒	阿部

聲きかはさてやゝみなん郭公待夜も深き哀その杜

むかし夢の告ありければ

守らんのちかひそしるき朝熊の浅く思はん夢の告かは

神風や世の浮雲をはらふらん朝日の宮の光さやかに

露のみの染る木末の色はまたあさかの山や時雨待らん

あまの住あこきか浦に春は猶霞の網や引かさぬらん

月清みあしろの濱のさゝ波はさなからひをのよるかと思ふる」<sub>109</sub>

忘るなよ我も思はんあこの山いをへの雲は立へたつとも

年経ても思ひ出へき此ねぬるあさけの山の月の名残は

すめはこそほかけみゆらめ波風にあはらけ嶋の蟹の笛やは

旅枕折敷いせの濱荻を爰にもあしの浦といふかも

ふりはへて又こそとはめ鈴鹿山色はかはらしあの松原

ちらすともいつ迄消は残るへき風にあはての杜の下露

をのか音もふりぬる友と雨山に鳴は五月の子規かな

浪風のある崎をし漕舟にのらぬ計そ浮は世の中

すはの海の末としきけは水閉よかち渡せん天つ中川

春雨のあと川柳さはへて緑もおなし色とかは見る

限なき戀をするかのあひ沢の逢見んとのみ思ふ頼に

立さはく心のうちそしられける夕暮ちかきあへの市人」<sub>110</sub>

▲花霞清見か関  
 思ひみるゝあしの海  
 同 足柄山 相模  
 ▲神  
 一夜とも宿をはかへ  
 すあまたゝひ立寄て  
 見る  
 同 芦海  
 ▲東路やあひの  
 中山程せはみ  
 同 蘆川  
 ▲あしかりの  
 ひこ船時雨  
 同 阿比中山  
 ▲年をへて引人  
 絶すあやめ  
 武蔵 秋名山  
 ▲宮小柴さす  
 たのむこひ  
 下総 阿賀須沼  
 ▲筑波根花咲  
 神鹿嵐嶺の  
 常陸 阿須波神  
 ▲ゆつり葉雪  
 嶺月 芦穂山  
 ▲舟とむる入江の  
 神秋風月  
 同 阿自久麻山  
 ▲あふ瀬不忘衣  
 同 芦間山  
 ▲山關清水しの薄  
 霧なげき別路春雨  
 同 會隈河  
 ▲紅葉櫻くつはむし  
 紅葉櫻ましろ夕立  
 近江 逢坂  
 ▲舟の音望月の駒三ツ  
 舟從しつくしら玉  
 同 近江海  
 ▲みるめ桑田比良山  
 さゝ波網代木  
 同 阿渡河  
 ▲河原湊高嶋足利  
 筏かちの原塩津  
 同 足利海  
 ▲沖高見山さゝ波  
 小高雨白渚  
 同 浅井岡  
 ▲五月原初霜  
 三井渡霞舟吹  
 同 朝妻  
 ▲雪氷の唐崎  
 しかの山崎  
 同 青木里  
 ▲木からしの風  
 野辺里早苗  
 同 朝日山  
 ▲雉子菅里玉椿

先立て越るも跡の友人も隔る雲のあしからのせき  
 はに出る戀路なりせは芦の海の波に乱てよらまし物を  
 月影の宿る間もなき夏の夜は短きふしの芦川の水  
 露はかりあひの中山中くゝにまきけん種よ浮思ひ草  
 所からしくるゝ雲のあしかりの秋なの山や紅葉そむらん  
 五月五日  
 けふことにあかすの沼のあやめ草かほりや人の心ひくらん  
 小柴さすあすはの神に任ても逢をいつてふ限りあらめや  
 穂に出る秋は有共芦は山櫻に匂ふ峯のしらくも  
 月の色は降つむ雪にゆつり葉のあしくま山の空そ疊れる  
 さはり多き芦間の山をそれとも思はて月や出てすむらん  
 ひたち帯のかけてそ頼む行めくりあふ隈川の深きえにしを  
 祈懸  
 越佐て相坂山にたとる身は関守神に祈りてや見む三ツ  
 みるめさへ涙は海と成にけりいつかあふみの名をやえてまし  
 千鳥鳴聲も幽に成にけり沖行舟の跡のみなとに  
 漕船のあしりの海を行まゝに澳より出る有明の月  
 暮ぬれは浅井の岡に月出て光待とる露の玉さゝ  
 一夜のみかはす契のあさ妻も深き涙のえに沈むらし  
 時そとてよそは色めく紅葉ゝに青木の里の秋そさひしき  
 曇りなき御代の光のさし添て朝日の里やゆたか成らん







夕立ほむけの風 同 鮎浦  
 なひきわつらふ 同 會野  
 網引蟹 あら磯 同 鮎浦  
 別にし君 同 鮎浦  
 しけき露 同 有馬村  
 忘貝 日をふる「ミヲ」 同 有馬村  
 たむくる花神祭 淡路 東屋嶺  
 白ゆふ花の時 淡路 淡路嶋  
 神無月時雨 同 淡路嶋  
 濁沖浦 荒磯 同 淡路嶋  
 住江舟尾鹿鳴月 同 淡路嶋  
 雪霧千鳥 阿波 淡路嶋  
 あま時雨 阿波 淡路嶋  
 千鳥塩風月 阿波 淡路嶋  
 須磨片帆せと 讃岐 阿波門  
 あはち嶋月衛 同 阿波門  
 春かすみ 同 阿波門  
 霧晴ぬ千鳥 伊予 網能浦  
 蟹乙女やく塩 伊予 網能浦  
 波風千鳥 伊予 網能浦  
 いさなとる 筑前 荒津濱  
 百敷の大宮人 同 荒津濱  
 舟乗塩風 同 荒津濱  
 海崎袖の別 同 荒津濱  
 草枕神妹 同 荒津濱  
 塩干興つ風 同 荒津濱  
 里から国月 同 荒津濱  
 心つくし松舟 同 荒津濱  
 關赤星鶯松 同 荒津濱  
 時鳥木の丸殿 同 荒津濱  
 月 同 荒津濱  
 野川山女郎花 肥後 荒船御社  
 萩万代玉くしげ 肥後 荒船御社  
 なけき雨五月 同 荒船御社  
 明行月「ミヲ」 同 荒船御社  
 莖も葉も 同 荒船御社  
 みとりなる芹 同 荒船御社  
 はふりこ 同 荒船御社

紀の海や蟹の引網めもはるに霧晴渡るあきの浦風  
 夢ならて誰にあふ野の草枕夜半の嵐も心してふけ  
 見し人やあくらの濱はきの海の深き契のかひもなからん「ミヲ」  
 櫻花けふの盛を世とくもにありまの村と思はましかは  
 をのつから神や住らん東やの峯にしたてる松を柱に  
 あはち嶋哀と見すは浪を荒み戸渡る船の浮は忘れし  
 淡路潟せとの塩さる心して渡る船人月やまつらむ  
 あはち潟月にやさそふ友千鳥あはと遙に鳴て行らん  
 行水の音も聞えてよる浪のあやの川邊の水解つゝ  
 いさなとる網の浦人いつとなく船乗すらん荒き浪間に  
 あきたつにならの都も通ふ波の花はさくらか八重の塩風  
 舟人の心もさそとしら波のあらつの濱の塩のみちひに  
 今爰にもろこし船の渡るかと芦屋の沖にみゆる月影  
 春来てもまたうら若み初草のあさくら山の鶯の声  
 なけきこる身と成果んあしき山あしき道にしまとひ入なは「ミヲ」  
 生死の海にたゞよふ世の人をたすけん為かあら船の宮  
 天皇の狩せし時に二神の現れ初しあその御社  
 槇のたつ荒山中の谷水も海と成ぬる五月雨のころ  
 木の間もりし心つくしの果なれや秋の湊の在明の月

二七〇  
 二七一  
 二七二  
 二七三  
 二七四  
 二七五  
 二七六  
 二七七  
 二七八  
 二七九  
 二八〇  
 二八一  
 二八二  
 二八三  
 二八四  
 二八五  
 二八六  
 二八七  
 二八八

[illegible]

あらはれし神の光や残すらんあはきか原の秋の夜の月  
降つみし去年の白雪消果て跡見の岡に咲る梅かえ  
したへとも鳴捨て行杜鵑聲に別るゝあかつきの山  
六月の照日に草もあかみ山秋の時雨やいかうらみん  
春といへは浪にも花や櫻魚の風に寄くるあち方の海  
雨露のふるき岩ほにむす苔をあらふの池によする白波  
雨の宮うるほふ神の恵みにはもるゝ草木もあらしと思  
かすますはそれともしらし白雪の消せぬ春の明ほのゝ山トモウ  
咲匂ふあのゝ萩原朝なゝまけし玉ともをける露哉  
千鳥鳴あしたの濱のはま風に心ならずや立て行らん

二一八九  
二一九〇  
二一九一  
二一九二  
二一九三  
二一九四  
二一九五  
二一九六  
二一九七  
二一九八

左

嵯峨の清涼寺にまうつるとて

行道のほたし成けり女郎花心のさかの野ははるかにて  
月影は霜かと計寒渡るさえ野の沼の秋のさよ風  
聲せすは松にむれるる白鳥の鷺坂山の雪とのみ見ん  
沢田川氷や結びとめつらむ風にみたれぬ瀬くのしら糸

二一九九  
二二〇〇  
二二〇一  
二二〇二

▲川霞妹小石駒 同 櫻井里  
 ▲千鳥大宮人蛙 同 櫻本  
 ▲呼子鳥鴈もみち<sup>一才</sup>  
 ▲ひのくま川馬<sup>一才</sup>  
 ▲つらぬる<sup>一才</sup> 同 佐野渡  
 ▲朝日嶋の御袖 同 佐保山  
 ▲鳴鳥とのる 同 佐檜隈  
 ▲春日三笠山 同 佐太岡  
 ▲花月玉藻水 同 佐紀山  
 ▲泪川玉藻水 同 佐太岡  
 ▲芦柳月女郎花 同 佐紀山  
 ▲あやめ身を捨る 同 佐紀山  
 ▲池鴨水松月 同 佐紀山  
 ▲冬の日霰雪 同 佐紀山  
 ▲駒なつむ 同 佐紀山  
 ▲海標鯛 同 佐紀山  
 ▲春と秋と松風 同 佐紀山  
 ▲卯花咲<sup>河内</sup> 同 佐野  
 ▲橋玉藻君 同 佐野  
 ▲水さひ下水 同 佐野  
 ▲卯花月夜時鳥 同 佐野  
 ▲花橋ともし<sup>和泉</sup> 同 佐野  
 ▲鹿猪名夕風 同 佐野  
 ▲あこの山五百重 同 佐野  
 ▲かくせる夢 同 佐野  
 ▲たのもしき 同 佐野  
 ▲名にも有哉 同 佐野  
 ▲神風花手向 同 佐野  
 ▲言葉の花<sup>三才</sup> 同 佐野  
 ▲東路風吹雪 同 佐野  
 ▲都の空月夢草枕 同 佐野  
 ▲横さの葉霰 同 佐野  
 ▲つらはれは 同 佐野  
 ▲思ひはなる<sup>同</sup> 同 佐野  
 ▲いつて舟 同 佐野  
 ▲棍取間なく 同 佐野  
 ▲岩根松友千鳥 同 佐野  
 ▲八千世龜のこふ 同 佐野  
 ▲花月塩の山 同 佐野  
 ▲あま小船冬夜 同 佐野  
 ▲妹か名よひて 同 佐野  
 ▲尾崎の沼鴨 同 佐野

契らしな花櫻井の里なれはまたても春は人やとひこん  
 櫻本を住家とせはやあちきなく春咲花は夢のよなれと  
 爰も又舟橋かけよ三輪か崎さの渡のさみたれの比  
 春の水の緑にそむる青柳の糸くりかくるさほの河原に<sup>三才</sup>  
 忍はれん我ならなくに駒留てしはし水かふさひのくまわに  
 宮人もともにねをのみ鳴鳥のさたの岡への昔をそ思ふ  
 さき山に咲ての後は花かとも誰か三笠の嶺の白雪  
 世間はさらて心の猿沢の池には浪も風にこそたて  
 風の音もかはれるさの松原や霰の玉のひき添らん  
 よしあしのさかひの浦の船なれや人を渡すも釣を垂るも  
 消残る雪かと袖もさへき山木葉かくれにみゆる卯花  
 淺間しき心の水のさひ江には玉ありとてもいかてみかゝん  
 ともしする光にしろし五月山さつおやいねす夜を明すらむ  
 夢にしも都なりせはさての崎さてや慰む旅の心を  
 都出てさのみ日数もあらなくに渡るはうれし幸の橋  
 言の葉の花咲世にも哀た櫻の宮のふかき恵みに<sup>三才</sup>  
 相坂の関の嵐は何ならす明しかねたるさよの中山  
 思はさるはしねとも何か思ふへき戀しきからに人を恨むる  
 さきまりの堀江につなくいつて船いつ出なまし長雨の空

二四〇  
 二四一  
 二四二  
 二四三  
 二四四  
 二四五  
 二四六  
 二四七  
 二四八  
 二四九  
 二五〇  
 二五一  
 二五二  
 二五三  
 二五四  
 二五五  
 二五六  
 二五七  
 二五八  
 二五九  
 二六〇  
 二六一  
 二六二  
 二六三  
 二六四  
 二六五  
 二六六  
 二六七  
 二六八  
 二六九  
 二七〇  
 二七一  
 二七二  
 二七三  
 二七四  
 二七五  
 二七六  
 二七七  
 二七八  
 二七九  
 二八〇  
 二八一  
 二八二  
 二八三  
 二八四  
 二八五  
 二八六  
 二八七  
 二八八  
 二八九  
 二九〇  
 二九一  
 二九二  
 二九三  
 二九四  
 二九五  
 二九六  
 二九七  
 二九八  
 二九九  
 三〇〇  
 三〇一  
 三〇二  
 三〇三  
 三〇四  
 三〇五  
 三〇六  
 三〇七  
 三〇八  
 三〇九  
 三一〇  
 三一〇

春風に散行花の櫻田は任せし水の波かとそ見る

篠の葉君  
野浦興つ嶋  
蟻のともす火  
春の日くらし  
「ペッ」

同 佐野岡

同 雜賀

庵さす草枕  
月鹿しの薄

同 篠宿

蟬井筒 五月雨  
うすき衣

同 曝井

熊野路  
うつやそとの

同 逆川

鳴門水鶏鶯  
とほかとも

同 左奴山

塩木別衣 鶯衣  
鏡とも見るべき

同 里海士

ちりのみかへる  
あなし吹月

同 櫻間池

夜舟こくせとの  
塩干

同 佐屋形山

隼人 塩さひ  
いかり岩は 鮎

同 篠川

吉野の瀧  
霜夜こほり

同 沙額田

野へ萩秋風  
このねめる

同 篠川

川藤浪 伐鴨  
をし月紅葉

同 篠川

時雨 瀬の白糸  
岩間水 霞

同 篠川

花盤 山吹 霧ニヤオ

同 篠川

宮原杜 杜梅つ  
花菫 浅茅 一夜松

同 篠川

馬場 埒あふち  
ほととぎす 薄

同 篠川

川山宮 鹿 螢  
きねか 鼓 神

同 篠川

山寺 龍 白糸 櫻  
時鳥 水 我古郷

同 篠川

山吹 清 瀧

同 篠川

北 野

同 篠川

貴布 祢

同 篠川

川山吹

同 篠川

かけ 移る 花は なかれぬ 清瀧の糸もて ゆへる 岸の山吹「ヤオ

同 篠川

木々の葉の塵に ましはる 光哉 北野、杜に移る 月影

同 篠川

頼め 置て 幾夜か 爰に きふね 河玉 ちる 波を 袖に かけつゝ

同 篠川

# 幾

菊しかん篠葉も見えすさの、岡雪降積る旅の夕暮

常宮と仕へまつらしさひか野に今も玉しく秋の夕露「ペッ

我身とて何かは露にことならん一夜からまし篠の宿りに

さらし井の水を結へは冬のきて時雨、空やうつ蟬のこゑ

老の浪流るゝ年も立帰れさかさま川も世にある物を

面影を雲に残してさぬ山やさぬる枕の明かたの夢

里のあまのたくもの烟打しめり下こかれぬる我思ひかな

櫻間の池の白波立添てえもいひかたき花の春風

月影のさやかた山の秋の空あなしや雲を猶はらふらん

船人のいきもつきあへすさつま瀉せとの塩さる過かてにして

篠川の落葉は舟の心ちしてつなくと見しは氷なるらし

春散し色のゆかりとさぬかたの野へに小萩の花や咲らん

▲山藤はかま 若な 鹿夕煙 岩つし 神祭松岩ね	▲軒端の竹雪 笠取山雨そく	▲人のかゝるの きつね川	▲中山呼子鳥花 み吉野五月雨	▲待月松十市里 有明の月見る夢	▲谷の陰道五月雨 月青根か嶺苔	▲蛙旅吉野川柳 六月いくしたて	▲千鳥月螢霜 江江秋白波	▲住江秋白波 こすの常夏草	▲露月 いせの海月小貝	▲駒玉ひろふ霞 あま螢夕波	▲塩干ヒメツ	▲東路星合の影 神無月またうつろはぬ菊川	▲漏崎浦旅人 千鳥足柄富士	▲月五月ひま行駒 君もきまさぬ	▲年ふもと 雪の白山頼む心	▲山さくら頭の雪 路橋御坂梯櫻	▲霞五月雨麻衣 伏鳥雪紅葉	▲時鳥雪紅葉 野邊逢坂關	▲駒杉村月雪 冬こもり雪	▲神海士の笠屋 妹月とよおか姫	▲柴の戸千鳥鴈
同	同	同	同	大和	同	同	同	同	撰津	伊勢	遠江	駿河	近江	同	信濃	同	陸奥	出羽	播磨	木庭	
清水	衣笠岡	清瀧宮	狐河	象山	象小河	清河原	清隅池	岸野	清渚	菊川	清見關	來増山	客人宮	木曾	切原	衣々山	象潟	木庭			

月の色も嵐の音も清水の瀧にたきそふ花の白浪  
 紅の衣かさ山とみゆる迄咲やつゝしの花の夕はへ  
 雨晴る笠取山の紅葉ゝも照そふ月の清瀧の宮  
 世中の人はかるてふ狐川見なるゝ袖も猶こゝろせよ  
 陰ふかききさ山松の下涼み幾秋風をこめて吹らん  
 秋もはやきさの小川の底清み霞し影にかはる月かは  
 川月をのつから空にひかれて心さへ清き河原の秋の夜の月  
 きよすみの池の心のいか計すめはすむらん春の夜の月  
 夜な／＼の月も色にやそみぬらん岸野ゝ萩の露に移れは  
 影清き渚の月に古郷を思ふ心のくまそ何なる<sup>コウ</sup>  
 いにしへに齡のふとし菊河のおなし名におふ水や結はん  
 雲消る空は清見か關もなし月を心に任せてそ見る  
 遙なるあふみちなれとともすれはきませの山の名を頼む哉  
 まれ人の宮るに積る雪の日は神も思はんこしの白山  
 朽にける木その棧それならてかく戀渡る末そあやうき  
 きり原の野への春駒取つなく人とはなしになつく若草  
 よそにたか夜半の名残や惜むらん衣々山の横雲の空  
 きさ潟の海士の笛やに宿とへはこたふる聲は人かさらぬか  
 物名  
 かき曇り降とはみれとしはしたに木にはたまらぬ春の淡雪

- ▲をやみせぬ  
なみたの雨  
▲そむる紅葉  
時雨春雨  
▲朝もよひ 妹背山  
吉野、奥氷雪  
▲白鳥の關あまつゝみ  
我せこ 關守 行年  
千束弓  
▲春の別へハオ  
暖 我通はん  
おもひし  
▲橘時鳥 朝倉山  
名乗 櫻 月鳥なく  
荻の上風  
▲池豊国 松夢妹  
氷霜枯 天雪瀬  
心つくし  
▲千代のひつき 雉  
露月 鹿紅葉 鷹竹  
▲若菜 春日野  
小芹引まくさ  
雪袖たれて  
▲若丹鶴妹  
袖のなみた  
▲山神のたつる御調  
花かさす 紅葉  
▲鶏川 小網 神代  
古しへにこふる鳥  
▲時鳥 我こふる  
谷飛鳥川 雨萩  
つし 青柳 爪木  
▲早蕨 卯花 萱露  
玉鉦 時雨 小篠原  
▲ね覚 鹿鳴  
うはたまの夢  
▲川上村 千鳥嵐  
夕立 紅葉 下草  
いせ道里 八  
▲原 驚雪 せみ  
下草 青鸞の駒
- 備中 木く村  
紀伊 紀河  
同 紀能関  
筑前 城山  
同 木丸殿  
豊前 企救濱  
未都 切府岡
- 大和 雪消沢  
同 湯原  
同 遊副河  
同 弓絃葉三井  
同 遊回岡  
摂津 夢野  
伊勢 湯都盤村  
近江 万木杜

## 遊

春雨の染る緑も薄くこき木くの村てふ名にはたかはす  
 雲と見し吉野の花も散ぬれはきの川つらの水と流るゝ  
 別戀 たつか弓帰る別を引留てきの關守かゆるさすもかな「ハオ  
 春もはやき山の霞立にけり出る朝日の色ことにして  
 時鳥むかし忘れす名乗らし木丸殿は跡しなけれと  
 知せはやうへはつれなきみさほにも下紅葉するきくの濱松  
 きゝす鳴きりふの岡の草なやきそ子を思ふ道を誰も思はは

賤のをか思ひありけに袖ぬれて雪けの沢にね芹をそ摘  
 子を思ふ涙もよほすゆの原に鳴声たつの聲にひかれて  
 ゆふ川にさてさす時は春秋の花も紅葉もさもあらはあれ  
 春過て鶯の音やゆつるはの三井のあたりに鳴郭公  
 さかぬより散まで花に幾度かゆきゝの岡の秋の萩原  
 はせを葉もさそしらるゝ假枕覚る夢野ゝ小男鹿の聲  
 河風の音しも絶て涼しさを月にゆつはのむらの夕くれ「ニッ  
 風もふかてゆるきの森の梢にはむれるる鶯や立さはくらん





▲御幸北野 若な  
 ▲雪梅とたちの跡  
 ▲原杜戀のやつこ  
 ▲諸人月霜千鳥の心  
 ▲加茂国はまの子の心  
 ▲ち葵神たち花  
 ▲山神葵しめ錦  
 ▲天の岩舟月松風  
 ▲真木の屋民  
 ▲年つむ紅葉霜  
 ▲朝戸我こひ江渡  
 ▲御牧野川入江渡  
 ▲春駒まこも五月雨  
 ▲螢淀蛙樓山吹舟  
 ▲雲雀ちどり菅  
 ▲霞若な雪柳三ツ  
 ▲野月妹細谷川  
 ▲春日樓時雨紅葉  
 ▲鴛雪松身を知らぬ  
 ▲山市川田里味酒  
 ▲杉檜原神もみち  
 ▲蛙霞雪鷹衣打夕立  
 ▲山細川山まゆみ  
 ▲御食向ふ紅葉蛙  
 ▲時雨櫻ちり  
 ▲み吉野岩根樓  
 ▲瀧つ瀬月  
 ▲秋月妹花  
 ▲露月  
 ▲山岸神杉月  
 ▲もみち初瀬川梅  
 ▲駒神垣橋虫霜  
 ▲雪松立田  
 ▲み吉野雪雨  
 ▲山道  
 ▲わきも子  
 ▲過ゆかん水  
 ▲路野三わの山邊  
 ▲父母女郎花  
 ▲霞藤はかま  
 ▲川春日山神  
 ▲氷野田の早苗

山城  
 御手洗川  
 同 御室戸山  
 同 水名河  
 同 耳敏川  
 同 三香原  
 同 御興岡  
 同 御祖神  
 同 御祇野  
 同 御倉山  
 同 美豆  
 大和 三笠山  
 同 三輪  
 同 南淵  
 同 水分山  
 同 始見崎  
 同 三諸  
 同 耳我山  
 同 耳無池  
 同 宮古森

六月歌  
 御祇する人のねかひもみたらしの川瀬の波も引手あまたに  
 紅葉ゝをたゝ我のみやみむろとの山つとにせん一枝もかな  
 忘れてはのとかに月をみな川のみなはのこく身をは思へと  
 御祇して更に祈らん耳と川またみゝなれぬ神や請かと  
 寄原戀  
 いかにせんほのかに人をみかの原分てなかるゝ袖の泪を  
 梅かゝに昔しらるゝ御こし岡みゆきにつゝく袖の追風  
 子規みおやの森のたちはなの香をかくはしみとめて鳴らん  
 きけはたゝ涼しかりけりみあれ山松風そふるみたらしの声  
 君か代の恵みもひろきみくら山年つむ民やたから成らむ  
 秋水郷  
 夕顔の枯葉に花の残るかとみす野の里の秋の白露「九ツ  
 山月  
 さし出る三笠の山の月影や青海原のひかり成らん  
 露隔遠樹  
 みわの山霞遙にへたつれと心の杉をしるしにそ行  
 夏月  
 夏山の緑もふかきみなふちに沈みな果そ短夜の月  
 月宿る木ゝの雪の落て又水分山の瀧つ瀬ことに  
 おらはやと思ふ心はなかりしを見初の崎の秋の萩かえ  
 しくれするみむろの山に染残す紅葉や後に見ん人の為  
 世のうきをきかしと思へはみよしのゝ耳かの山も松風の声  
 水満池上  
 いにしへもかくし氷らは耳無の池にも妹はいかてかくれん  
 古郷は雲るのいつこ移行みやこの杜の名のみ残して

一三〇一  
 一三〇二  
 一三〇三  
 一三〇四  
 一三〇五  
 一三〇六  
 一三〇七  
 一三〇八  
 一三〇九  
 一三一〇  
 一三一  
 一三二  
 一三三  
 一三四  
 一三五  
 一三六  
 一三七  
 一三八  
 一三九

▲五月雨瀬 舟涙の淵 <small>三</small> オ	同	三宅原
▲山三諸朝日鷹	同	水屋
▲紅葉驚霞雪玉柳	同	見馴河
▲花時鳥女鹿若な	同	三垣原
▲吉野みくくの世	同	御金嵩
▲雪山月法とく	同	御金嵩
▲先子規浮ね	河内	御金嵩
▲崎浦あはち百舟	同	御金嵩
▲忘目あま霞衛	同	御金嵩
▲鹿妹沖波の	摂津	御金嵩
▲河原山里波の	同	御金嵩
▲松時鳥五月雨	同	御金嵩
▲稍むさひ	同	御金嵩
▲山松諸葉草	同	御金嵩
▲葵卯花月夜	同	御金嵩
▲月のかつら	同	御金嵩
▲入江野川こも	同	御金嵩
▲菅たつ芦松雪	同	御金嵩
▲塩風え嶋	同	御金嵩
▲沖友船松風鹿	同	御金嵩
▲渡守時鳥驚	同	御金嵩
▲白つしすくも	同	御金嵩
▲追風網綱魚	同	御金嵩
▲秋の初風 <small>三</small> ッ	同	御金嵩
▲山濱瀧苔	同	御金嵩
▲うつせ目鹿杉の	同	御金嵩
▲戸つせ目鹿杉の	同	御金嵩
▲水つみ	同	御金嵩
▲あちの村鳥	同	御金嵩
▲難波露に沈む	同	御金嵩
▲芦吹風戀	同	御金嵩
▲御食国小松雪	同	御金嵩
▲濱ゆふ万代雪	同	御金嵩
▲しまのあま	伊勢	御金嵩

伊勢	真熊野
同	三原池
同	箕面
同	三穂浦
同	湊川
同	湊山
同	三嶋
同	御影
同	三國山
同	水無瀬
同	敏馬
同	御墓山
同	嬰兒山
同	御金嵩
同	三垣原
同	見馴河
同	水屋
同	三宅原

野草花  
さはりおほきみやけの原の女郎花風に乱つ露にしほれつ  
水や川流にしろし世を守る神の心や清くすむらん  
みなれ川逢瀬は絶しこと方に流るゝ筋の又もなければ「三」オ  
春もまたみかきの原は入たゝし積れる雪に跡し見えねは  
さやかなるかねのみたけの秋の月其曉の影もかはらし  
郭公うらめつらしき若草のみとりこ山に初音もらして  
初時鳥  
御はか山跡なつかしく詠れは雲や昔の形見成らむ  
見懸  
かく計ねれん物かは中ゝにみぬめの浦の海士の袂は  
河邊納涼  
水無瀬川下にや秋の通ふらん身にしむはかり風そ涼しき  
おほつか何そととへは三國山梢もとむるむさゝひの声  
八月十五夜  
冬月  
こよひとていつくも月を御影山名におふ外の松の村立  
なれゝし世は忘れしと三嶋江や芦の枯葉に宿る月影  
みなと山おろす嵐に船人も波とゝもにや立さはくらん  
湊河や鹿の音さそふ山風に紅葉ゝそへて吹流すらむ  
漁するみほのうら人引網のめにこそ見えねしるき後世「三」ッ  
物名  
世間を捨て山にはいらて此身のおしまるゝ事そはかなき  
空にのみあちの村鳥聲す也みはらの池や氷とつらん  
寄涙盡戀  
思はさりきあはて立にし難波成みをつくしより帰りこんとは  
浦雪  
濱ゆふの百重ともいさしら雪の降かさねたるみくまのゝうら

▲鈴鹿川いせ路 同 見瀬川  
 ▲ふかき心 同 宮河  
 ▲岸の杉村 同 未曽瀬  
 ▲御被水垣 同 参河池  
 ▲春風月しき波 同 亂橋  
 ▲さかしは 同 三渡  
 ▲すを過て行 同 三津浦  
 ▲ことしおひ 同 御塩殿  
 ▲あやめ草 同 参河  
 ▲おふのゝ原 同 参河  
 ▲花薄 同 三渡  
 ▲磁月濱松 同 三津浦  
 ▲朝みづ塩伊勢海 同 御塩殿  
 ▲あなの松はら 同 参河  
 ▲塩のみつ波の花 同 三津浦  
 ▲朝霧うら人 同 御塩殿  
 ▲二見瀧神さひ 同 参河  
 ▲千代松陰三オ 同 参河  
 ▲池水鳥ぬさ雨 同 参河  
 ▲紫の雲藤波 同 参河  
 ▲しかすかの渡 同 参河  
 ▲春深く玉藻 同 参河  
 ▲春雨汀水 同 参河  
 ▲鶺鴒す田鶴 同 参河  
 ▲うらこか崎東路 同 参河  
 ▲ぬ道に世を渡る 同 参河  
 ▲浦崎風早つし 同 参河  
 ▲清見月旅塩風 同 参河  
 ▲千鳥松鷹雪竹や 同 参河  
 ▲橋をくきて 同 参河  
 ▲道のなかつ路 同 参河  
 ▲神宮沖 同 参河  
 ▲海士の釣舟月 同 参河  
 ▲巢立はしむる 同 参河  
 ▲鶺鴒すくる 同 参河  
 ▲高鎌倉雪 同 参河  
 ▲みなせ川東路 同 参河  
 ▲鎌倉東路塩霧 同 参河  
 ▲五月雨霞夕霧 同 参河  
 ▲古への花を移す 同 参河  
 ▲こかねの花雪 同 参河  
 ▲里たのむの鷹 同 参河

無常 人はたゝかりに形をみせ川の流にむすふ水のうたかた  
 夏歌 あつしきは又もあらしな宮河の清き流に御被しつれは  
 みそかせに塩さしそふる朝けとて水の煙や立のほるらん  
 あやめ生るみかはの池や八橋の名におふ草の根に通ふらん  
 寄橋戀 花薄ほにこそ出ね戀渡る心のうちはたゝみたれはし  
 み渡りやいせの濱荻折にふれて旅ね涼しき松の下陰  
 夕塩のみつの浦波立さはきみたれて帰るあまの釣舟  
 世を守る神にそなふるみしは殿春の御法の名にも通ひて三オ  
 色そこきいつまてかくはみやち山風のさそはぬ紅葉なり共  
 水さへも春の色にそ成にける氷解ぬるみとり野の池  
 秋寒きみねのゝ原の草枕なれもうつらの床をならへて  
 はつかにも人をみか野ゝ橋くるにかゝる心や身を沈めまし  
 浦松 富士のねの雲の行ゑも立消て麓にけふる三ほのうら松  
 なき人も猶俳にたち花のみえりの里の昔おもへは  
 神歌 頼むかなくらき心に月影のいつの三嶋の神の恵を  
 鶺鴒の花をぬふてふ笠もなし雨にみのふの里や頼まん  
 いかなれは春の光はわかなくに御こしか嵩の雪の村消  
 秋もけふ月はまとかに成にけりみななせ川にさすや初塩  
 東路のみたけの山に降雪は吉野ゝ春の花さかりかも

時鳥 田面の月  
ちる花し三ッ  
筑波根 櫻花 淵  
霞月 春の湊 卯花  
早苗 五月雨 水の白  
浦里 泊舟 松  
しかの浦 螢 鶴  
万代 貝水 もろ人  
神風 木の本 ひえ  
川流 松風 長橋  
時雨 紅葉 錦  
誰織 かけし 錦  
寺清水 ささ 波  
鐘玉 水し らき  
初湯  
五月雨 川上  
浪こそ 渡れ  
あふ事 は 猶  
かた糸の  
諸人の 十年 延てふ  
あさち ゆふ して  
秋風 夏の わかれ  
仙山 浦海 小松  
田鶴 螢 みる め月  
網引 民 高嶋 大津  
の宮 ささ 波  
雪 若 千年の 春  
梅 五月雨 鴈 葛  
木葉 時雨 浅茅 生  
山嵩 原 杉村  
八百 万代 雪 千鳥  
月 紅葉 南の 海 三才  
佐野の 舟橋 霞  
春の 明はの  
沖つ 風 荒磯  
梓山 我身 に  
秋の 来る 雪  
尾花 咲は 一の 鹿  
かりて はず  
下野  
美香保崎  
同 御坂  
同 宮古井  
同 御射山  
信濃  
美濃中道  
同 三輪崎  
同 三上  
同 水莖岡  
同 見遣岡  
同 水尾崎  
同 御祓河  
同 見目関  
同 水底橋  
同 三井  
同 三村山  
同 御津河橋  
同 三津濱  
同 美奈能川  
常陸  
三吉野  
武蔵  
三吉野

おなし名の花に帰りしみ吉野のたのむの鴈や月にきぬらん」三ッ  
みな の川 漲る 水 や つく は ね の 嶺 に 積 り し 去 年 の 白 雪  
哀 わ か ね か ひ を み つ の 濱 松 の 世 に 散 う せ ぬ 言 の 葉 も か な  
渡 り こ し 年 は 六 十 に み つ 川 の 末 の 長 橋 か け て 頼 ま ん  
紅 葉 へ は み む ら の 山 の 名 に 越 て を る や 錦 の 廣 き は た は り  
世 く を へ て 絶 せ ぬ 法 の 光 か も 三 井 の 流 に す め る 月 影  
い つ よ り か 人 の 通 ひ も 絶 め ら ん 落 て 沈 め る 水 底 の 橋  
寄 閑 戀  
世 の 人 の 見 る め の 関 を い か せん 相 坂 山 を た と ひ こ ゆ と も  
を の つ か ら 白 ゆ ふ か く る 御 祓 川 波 の ま に く 神 や う く ら ん  
切 流 す み お の 柚 木 の 淀 む 共 つ ゐ の よ る 瀬 に あ は さ ら め や  
若 菜 摘 比 に や な る と 幾 度 か み や り の 岡 の 雪 そ つ れ な き  
玉 章 と 見 え て つ ら な る 鴈 金 や お り ゐ る 方 も 水 く き の 岡  
霞 に そ 改 り ぬ る 海 こ し に 三 上 の 山 の 雪 は き え つ 三才  
寄 橋 戀  
我 思 ひ か け て 通 は ん 三 わ か 崎 人 に 知 れ ぬ 舟 橋 も か な  
奥 は さ そ 猶 深 か ら し 降 積 る 往 来 す く な き 美 の 中 道  
秋 ふ か き み さ 山 陰 の 花 薄 ほ に 出 て 鹿 も 妻 や こ ふ ら ん  
都 井 に 我 影 た に も 移 さ は や さ て 思 ひ ぬ る 人 は 見 え す と  
ぬ さ 取 て 祈 ら は 神 も 守 る ら ゐ 御 坂 も 千 世 の 坂 と 成 ま て  
都 を や 思 ひ 出 よ と 照 月 の み か ほ の 望 の 夜 半 の ね 覚 に  
幕 中 月

一五八  
一五九  
一六〇  
一六一  
一六二  
一六三  
一六四  
一六五  
一六六  
一六七  
一六八  
一六九  
一七〇  
一七一  
一七二  
一七三  
一七四  
一七五  
一七六





▲七瀬泥戀 同 檜原  
 ▲野里雲の林 同 城南寺  
 ▲松若な子日 同 標之野  
 ▲鶯梢花月 同 塩竈  
 ▲人岸の藤波 同 志津原  
 ▲女郎花音羽 同 椎嶺瀧  
 ▲あたこ山花つむ 同 嶋乃宮  
 ▲雪霞たな引 同 嶋山  
 ▲民の戸神 同 茂岡  
 ▲宮居 同 嶋山  
 ▲若菜櫻野沢 同 嶋山  
 ▲浅茅女郎花都人 同 嶋山  
 ▲さいたたまし 同 嶋山  
 ▲煙絶にし 同 嶋山  
 ▲約する舟も 同 嶋山  
 ▲愛によらなん 同 嶋山  
 ▲山賤霞烟 同 嶋山  
 ▲宿しめて 同 嶋山  
 ▲冬にあせ行 同 嶋山  
 ▲岩根の水 同 嶋山  
 ▲吾妹なかるゝ浪 同 嶋山  
 ▲我日の御子万代 同 嶋山  
 ▲上の池はなち鳥 同 嶋山  
 ▲朝君 同 嶋山  
 ▲千世の松木神 同 嶋山  
 ▲さひ子日朝日風 同 嶋山  
 ▲霜の下草月 同 嶋山  
 ▲君かため 同 嶋山  
 ▲橘うすにさし 同 嶋山  
 ▲まうち君 同 嶋山  
 ▲若菜つむ 同 嶋山  
 ▲国すら君を思ふ 同 嶋山  
 ▲紫野野守春駒 同 嶋山  
 ▲月白露浅茅 同 嶋山  
 ▲若な雪さゝの庵 同 嶋山  
 ▲草の庵雨露 同 嶋山  
 ▲薫もみち袖ぬるゝ 同 嶋山  
 ▲郭公初草五月 同 嶋山  
 ▲かけ草花薄 同 嶋山  
 ▲戀夏 同 嶋山  
 ▲濁りなき 同 嶋山  
 ▲見るに涼しき 同 嶋山

あたこ山分入人の跡もなししきみか原は雪のみそつむ  
 いつかはと帰り都の南なる宮ゐはなれて行そかなしき  
 しめし野は去年の深雪の消やうて思はぬ方の若なをそ摘  
 塩かまの烟絶にし跡よりは蚊遣焼屋も世にたてる程  
 蚊遣火  
 春くれはいとなむわさもしはしやめて賤か心やしつ原の里  
 椎かおの岸根の水解ぬ間は眉にこもれる瀧の白糸  
 高照す光さやけき嶋の宮も嶋かくれにし跡そはかなき  
 しけ岡の松の木間をもちかねて外面の草に月そほのめく  
 橘はなを咲匂ふしま山にきゝしむかしの人はなければと  
 春きても雪間も見えぬしはの野は心あてにや若な摘らん  
 萩も咲薄かうれの秋くれはをのかしめ野と鹿や鳴らん  
 世のうきにふらてもぬるゝ袂哉もらぬ岩やの雨ならすして  
 夜をかさねきかはや聞ん時鳥いかに忍ふの岡に鳴とも  
 池月  
 夏までも消ぬ氷か手に結ふ清水の池にうつる月影  
 旅夢  
 五月きてをのか時とや郭公信太の杜のしのに鳴也  
 めるとも夢やは結ふ松風を敷津の浦の夜半のさ菴  
 さはるへき木間ならてもをのつからしま熊山の春のよの月  
 秋の夜の月の光はさしなから雪の白野ゝ濱の真砂地  
 人しれす通はん物をしたひ山下水水を我身ともかな



▲里 楠の木<sup>かみ</sup> 枝<sup>み</sup> 同 四八津  
 五月時鳥<sup>かみ</sup> 蟬<sup>み</sup> 月<sup>み</sup> 同 注連宮  
 一本<sup>も</sup> 櫻<sup>も</sup> 手枕<sup>も</sup> 下草<sup>も</sup> 同 白良濱  
 ▲住江<sup>も</sup> なのり<sup>も</sup> そ<sup>も</sup> 舟<sup>も</sup> 同 四泥崎  
 田鶴<sup>も</sup> い<sup>も</sup> な<sup>も</sup> む<sup>も</sup> し<sup>も</sup> 松風<sup>も</sup> 同 塩合濱  
 霜<sup>も</sup> 雨<sup>も</sup> 霞<sup>も</sup> あ<sup>も</sup> ま 同 篠間  
 玉勝<sup>も</sup> 間<sup>も</sup> 君<sup>も</sup> 山路<sup>も</sup> 同 塩合濱  
 月<sup>も</sup> て<sup>も</sup> く<sup>も</sup> ら<sup>も</sup> の<sup>も</sup> 森<sup>も</sup> 同 篠間  
 取<sup>も</sup> も<sup>も</sup> ち<sup>も</sup> て<sup>も</sup> ま<sup>も</sup> そ<sup>も</sup> 鏡<sup>も</sup> 同 篠間  
 下<sup>も</sup> 行<sup>も</sup> 水<sup>も</sup> 同 篠間  
 網<sup>も</sup> 手<sup>も</sup> 繩<sup>も</sup> 言<sup>も</sup> 同 篠間  
 ▲神 櫻<sup>も</sup> 宮<sup>も</sup> 守<sup>も</sup> 同 篠間  
 朝<sup>も</sup> き<sup>も</sup> よ<sup>も</sup> め<sup>も</sup> い<sup>も</sup> か<sup>も</sup> き 同 篠間  
 ▲白<sup>も</sup> 目<sup>も</sup> 鳥<sup>も</sup> 目<sup>も</sup> 沖<sup>も</sup> 石<sup>も</sup> 同 篠間  
 月<sup>も</sup> 白<sup>も</sup> 波<sup>も</sup> 衛<sup>も</sup> 同 篠間  
 松<sup>も</sup> か<sup>も</sup> も<sup>も</sup> め<sup>も</sup> 雪<sup>も</sup> 同 篠間  
 ▲御<sup>も</sup> 祓<sup>も</sup> 浪<sup>も</sup> 神<sup>も</sup> 同 篠間  
 ゆ<sup>も</sup> ふ<sup>も</sup> と<sup>も</sup> り<sup>も</sup> し<sup>も</sup> て<sup>も</sup> 同 篠間  
 ▲見<sup>も</sup> し<sup>も</sup> 方<sup>も</sup> の<sup>も</sup> 戀<sup>も</sup> し<sup>も</sup> き 同 篠間  
 み<sup>も</sup> や<sup>も</sup> こ<sup>も</sup> 鳥<sup>も</sup> 同 篠間  
 ▲二<sup>も</sup> 月<sup>も</sup> 漏<sup>も</sup> を<sup>も</sup> ち<sup>も</sup> の<sup>も</sup> 湊<sup>も</sup> 同 篠間  
 駒<sup>も</sup> 月<sup>も</sup> ひ<sup>も</sup> る<sup>も</sup> 川<sup>も</sup> 山<sup>も</sup> 同 篠間  
 ▲あ<sup>も</sup> ふ<sup>も</sup> の<sup>も</sup> 海<sup>も</sup> 蟹<sup>も</sup> 同 篠間  
 風<sup>も</sup> の<sup>も</sup> か<sup>も</sup> ら<sup>も</sup> み<sup>も</sup> の<sup>も</sup> 同 篠間  
 ▲舟<sup>も</sup> 路<sup>も</sup> 旅<sup>も</sup> 人<sup>も</sup> 渡<sup>も</sup> 守<sup>も</sup> 同 篠間  
 ▲夢<sup>も</sup> 浮<sup>も</sup> 橋<sup>も</sup> 若<sup>も</sup> な<sup>も</sup> 同 篠間  
 ▲宮<sup>も</sup> 路<sup>も</sup> 山<sup>も</sup> 八<sup>も</sup> 橋<sup>も</sup> 同 篠間  
 ▲湊<sup>も</sup> 松<sup>も</sup> 入<sup>も</sup> 海<sup>も</sup> 秋<sup>も</sup> の<sup>も</sup> 同 篠間  
 ▲汐<sup>も</sup> 風<sup>も</sup> 舟<sup>も</sup> 人<sup>も</sup> 雪<sup>も</sup> 同 篠間  
 さ<sup>も</sup> す<sup>も</sup> ち<sup>も</sup> ふ<sup>も</sup> 同 篠間  
 ▲崎<sup>も</sup> 東<sup>も</sup> 路<sup>も</sup> に<sup>も</sup> へ<sup>も</sup> の<sup>も</sup> 浦<sup>も</sup> 同 篠間  
 岩<sup>も</sup> 枕<sup>も</sup> し<sup>も</sup> き<sup>も</sup> 波<sup>も</sup> 同 篠間  
 帰<sup>も</sup> る<sup>も</sup> 波<sup>も</sup> 同 篠間  
 ▲時<sup>も</sup> 雨<sup>も</sup> も<sup>も</sup> み<sup>も</sup> ち<sup>も</sup> 苔<sup>も</sup> 池<sup>も</sup> 同 篠間  
 棹<sup>も</sup> 鹿<sup>も</sup> 風<sup>も</sup> の<sup>も</sup> ま<sup>も</sup> に<sup>も</sup> 同 篠間  
 ▲い<sup>も</sup> や<sup>も</sup> 遠<sup>も</sup> さ<sup>も</sup> か<sup>も</sup> る<sup>も</sup> 旅<sup>も</sup> 同 篠間

うきわさをしはつの海人のあみ手繩苦き海は此世のみかは「語ッ  
 引はゆるしめの宮るの櫻花風もいかきは越しと思ふ  
 月影はほのかに成て波間よりしららの濱の明方の空  
 行人のために手向をしての崎さきくあれなと神を杜祈れ  
 古郷はわすれもやらすしか濱のしか思はしと思ふ物から  
 月のすむふたみの浦を見渡せは干潟そ遠き塩合の濱  
 かつきするしのまの蟹の袖ならはぬるゝ共かく人め忍はし  
 暮ぬれは音に鳴ぬへきしかすかの渡りに船を待そ物うき  
 立波も降くる雪も白菅の湊の舟や漕迷ふらん  
 うきを身にいかてしるはの磯枕よるの衣を浪にかけすは  
 芦の屋に織てふ帯と見えつるはしつはた山を廻る白雲  
 したの浦や朝漕出る旅舟のほのかに見えて行ゑしらすも  
 しほの山指出る月のみ船こそほのゝみゆれ雲の波間に「言ッ  
 杜時雨  
 残らすも染る時雨や木ゝのはにあまる雪の杜の下草  
 浮雲も嵐に晴る浪の上に月待えたるしたのうき嶋  
 住佬る朝けの烟かすかにて風のみさはく柴のうら里  
 残花  
 吹風や松にたくへて残すらんしかの山邊の花の一もと  
 白雪のつきてふらねは行駒の跡こそみゆれ塩津山道  
 西の空の光を分て鳩の嶺わしのみ山を照す月影

一四九  
 一四〇  
 一四一  
 一四二  
 一四三  
 一四四  
 一四五  
 一四六  
 一四七

朝こく舟	同	十禪寺宮
指出の磯月八	同	白月山
千代千鳥郭公	同	新羅森
舟田鶴雪しき波	同	篠原
山田井筑波根	同	塩田川
鴈夕立春雨花薄	同	標茅原
鴈五月雨梅雪早苗	同	下野
海士塩路露月	信濃	下野
海士のたぐ柴煙	信濃	標茅原
浦山里海濱寺	下野	下野
さ波辛崎大宮人	陸奥	下野
鰯いさり舟みるめ	陸奥	下野
櫻霞山越ふき	同	下野
鴈月衣うつ松霧	同	下野
山高嶋舟菅原	同	下野
駒雪千鳥花	同	下野
あとの濱	同	下野
やはらくる光驚山	同	下野
西の雲の秋月	同	下野
神垣有明の月	同	下野
驚山我立松曉	同	下野
ゆふたみ松雪	加賀	下野
霜鹿卯花梅花	同	下野
紅葉さねかつら	同	下野
紅の木葉三井	同	下野
幾世神の心月	越中	下野
雪旅月野路	同	下野
露志賀 曉閣	同	下野
近江路	同	下野
岩高き舟	同	下野
さしのぼりたる月	同	下野
霜枯下蔵	同	下野
すかる鳴萩	同	下野
さしも草し三ッ	同	下野
東路夢現	美作	下野
心もとけぬ下紐	同	下野
磯沖舟煙花 鶯	備後	下野
雪鴈海士月松	同	下野
山岡里杜原浦	紀伊	下野
もちすり薄橋	同	下野

末の世の闇路照さん大ひえや麓に残る在明のつき  
逢事はしら月山のさねかつらさねこんとのみ人はいへとも  
さやかに三井の流に照月やしらきの神の光そふらん  
露深き野路の篠原分行はまたきに旅の袖そしほるる  
暮ぬれは月の光もさしそへて塩田の川をのぼる舟人  
弥陀頼むしめちか原のさしも草さしもれしな深き誓に「言ッ  
古郷の人は我をや忘るらんしるしもとけぬ下紐の関  
塩かまの浦に立てふ雲ならぬそれとはいはし忍ふ思ひを  
入て猶忍ふの山もつゝましき我ならて通ふ人もこそあれ  
都にて我見し友を尋れば月より外はしら川の関  
夢ならてこえ行越の白山は一夜にかみも雪と社なれ  
分まよふ露に風吹しの原やしのに心をくたく旅哉  
月花を都は常そしふ谷のありそに通ふあまの釣舟  
越の海を漕くる船と見えつるはしなのゝ濱にわたる鴈金  
しるらめやしかまの市にうる藍の思ひそめてし心深さを  
高塩のみちくるまゝに敷浪の関しまさしく船そとゝむる  
いつとなき露分衣いとゝしく塩たれ山の秋霧のころ  
天の戸は明てもくらきしとみ山おろす嵐に木葉ふるらし「天  
からき世を哀みたれてすくへはや塩やの神と現れにけん

雨口なし時雨子規 同  
 卯花霞屬山吹 同  
 岩つし樓 同  
 月花宮庄時雨雪 同  
 相坂宮庄時雨雪 同  
 鶯夢鴈霧木葉 同  
 雪かのこまたら扇 同  
 風あらの玉の年臘月 同  
 鷹松の木らしいの鳥 同  
 旅妹夢衣手夕 同  
 風時雨宿はなし 同  
 二上山鶯の子駒露 同  
 すそまの山有磯月 同  
 鰲釣舟玉藻 同  
 越の海春日秋風 同  
 木曾鴈駒 同  
 江海市川里霞 同  
 鰲舟から染るなき 同  
 名みそき麻ゆふ 同  
 してあい嵐霞商 同  
 人民市女君か代 同  
 追風つくし舟 同  
 いたてにはしれ 同  
 され水簾行 同  
 呼子鳥秋霧 同  
 おろしの風紅葉 同  
 柴の戸はそ明鳥 同  
 里沖つ風夕煙 同  
 我ことからき 同  
 あま物思ふ 同  
 大船真梶 同  
 舟こく波 同  
 渡走湯君か代 同  
 真砂御幸白玉濱 同  
 松秋月拾ふ石玉 同  
 よしや君昔の玉の 同  
 床とても雪 同  
 よろしき国入日 同  
 いよの高根麓 同  
 塩浦嶋めぐり 同  
 いさり火戀鶯 同

白崎 同  
 白良濱 同  
 白嶺 同  
 嶋山 同  
 志加 同  
 嶋浦 同  
 白河 同  
 四極山 同  
 茂森 同  
 志能麻 同  
 志都岩屋 同  
 敷野 同  
 信濃野 同  
 南指岡 同

渚こく船の行かひ隙もなし荒くなせそ波のしら崎  
 逢ことはいさやしらの濱に出てひろはぬ玉そ袖に乱るゝ  
 いたくまた積らぬ先に分なまし今朝降初る雪の白嶺  
 遠方は霞わたれる海つらの夕日に残る伊与のしま山  
 袖ぬれてをくしもとらぬしかの海士も心をさへに髪は乱れし  
 大和路の嶋の浦わの紅葉ゝをから紅にいかにそむらん  
 帰るさをいつともいさや白河の流るゝ水にたくふ我かは  
 しはつ山ならの廣葉の下涼みよそにも秋の風や吹覧  
 心より生てふ種の言の葉もしけりの杜と思はましかは  
 忍ひつゝしのまの海士を頼てもみるめからまし袖はぬる共  
 うらめしなしつの岩屋にいましけん神や作りし戀の山路は「スラ  
 旅宿  
 旅枕しき野ゝ原を朝立て心に残る棹鹿のこゑ  
 しなの野に生るとくさもうら枯てみかゝぬ玉とみゆる白露  
 風寒みまた消なくに春そとは何をするへの岡の白雪

恵

一四六  
 一四七  
 一四八  
 一四九  
 一五〇  
 一五一  
 一五二  
 一五三  
 一五四  
 一五五  
 一五七  
 一五八  
 一五九  
 一六〇  
 一六一  
 一六二  
 一六三  
 一六四  
 一六五  
 一六六  
 一六七  
 一六八  
 一六九  
 一七〇  
 一七一  
 一七二  
 一七三  
 一七四  
 一七五  
 一七六  
 一七七  
 一七八  
 一七九  
 一八〇



月ゆふたすきあや 同 姫 嶋  
 杉皇御門の親 伊勢  
 池月更級明石 同 比留川山  
 氷都の空松風 同 日 中  
 弥生の雨水に 参河  
 あやをる 引馬野  
 ふすま 相模  
 妹時鳥梓弓 日向山  
 君を祈る 常陸  
 二心なき戀 常陸海  
 神淺瀬みぞつ 同 斐田細江  
 くし五月雨 近江  
 千世 比良山  
 涙の淵 同 日 吉  
 紐とく妹草 同 檜物里  
 山宮卷向鳴神 同 屏風浦  
 時雨稚柴霧 同 日 吉  
 雪杉原霞仙人 同 日 吉  
 初瀬時鳥紅葉 同 日 吉  
 さいのくま馬頭の 同 日 吉  
 雪時鳥月霧つら 同 日 吉  
 入野の宮氷霜 同 日 吉  
 櫻春風 同 日 吉  
 明行蓮雲 同 日 吉  
 濱神垣淡路 同 日 吉  
 繪崎白雪浮身 同 日 吉  
 妹千代小松苔 同 日 吉  
 塩風白波田鶴 同 日 吉  
 月雲 同 日 吉  
 塩合の濱 同 日 吉  
 濱村朝け 同 日 吉  
 過ては日中三ッ 同 日 吉  
 榛原思ひ草 同 日 吉  
 萱旅諸人鹿 同 日 吉  
 露姫小松子日 同 日 吉  
 淺茅雪 同 日 吉  
 さしてこしひなた 同 日 吉  
 目もあきら雪 同 日 吉  
 伊加々崎田子浦 同 日 吉  
 夜舟鹿鳴千鳥 同 日 吉  
 海士のいさり火 同 日 吉  
 白真弓青鳥 同 日 吉

姫嶋や小松かうれの白雪を月ともしらて拂ふ塩風  
 照つゝく日影に谷の下水もひる川山のみな月の空  
 ふかみ草うへしもあやし賤かやに花のさかりをひなかにそ見る「三ッ」  
 姫小松たか手をふれし白真弓引間の野へに春を迎て  
 春のきておなしひなたの山なれと消み消すみ雪のみゆらん  
 衣手のひたちの海のかしま成かしこましきは夜舟こく音  
 夜や寒きひたの細江のかたへよりさはけは騒くすかの村鳥  
 花とのみにほの浦波よる度に猶寒渡るひらの山かせ  
 餘寒  
 明らけき法の光に猶添て日吉の影や世を照すらん  
 詠諧  
 あふ坂の關のあなたの浦の名に屏風の内の人そ戀しき  
 釋中花  
 旅衣ひものゝ里のかは櫻折もこそあれ花の下ふし  
 秋風のはらふはかりに朝彦のひこねの山に消るやへ霧  
 雲間花  
 立ならひ咲や櫻の一重山おもなくみゆる春の白雪  
 行めぐりくるまの里にひとね川渡る名残も有明の空  
 寄廣懸  
 いてはなるひらかの鷹も人の手に馴れはなるゝこひの心に「三ッ」  
 あま人のよひ聲ちかしひみの江の浦によるてふつなし取らむ  
 高照す日をきの里のにきはふや君か惠のやふしわかねは  
 五月雨にひらの谷水末深みあやめや波の底になるらん  
 日影さすひの川上は八重雲の立かとそ見る夕くれの空

妹 渡宿かね  
 湊 浦山高根都  
 釣 舟あま志賀浦  
 法の水谷岩陰  
 時雨雪櫻月  
 神宮柴の戸霜  
 葵仏の道松雪霜  
 千早振神無月  
 春霞相坂の關  
 かは櫻旅衣  
 八重の雲朝日  
 世を照す朝日  
 花縮の白雲  
 衣かへ  
 都くるまの  
 里人  
 鷹鷲元オ  
 まつたえの濱  
 つなしとるあま  
 あし鴨  
 君か代あかね  
 さす卯花咲  
 あやめ谷水  
 千年五月雨  
 八重立雲鳴神  
 夕立出雲八重垣  
 高津山月  
 石見濁  
 花盛紅葉  
 小夜更て  
 舟波櫻都人  
 うら風鳴神  
 夕立五月雨  
 月の氷あちの  
 むら鳥  
 長閑なる春  
 あきらけき代の始  
 網のうけなは  
 海人波間  
 東風ふく  
 夏月  
 行者は帰り  
 児はとまれる「元ウ

石見  
 比礼振嶺  
 同  
 日晩山  
 同  
 比治奇奈田  
 備前  
 比く乃手  
 備中  
 比佐志山  
 備後  
 引嶋  
 周防  
 氷室池  
 同  
 屏風嵩  
 同  
 檜原嶺  
 筑前  
 引津  
 筑後  
 一夜川  
 肥前  
 比礼振山  
 豊前  
 菱池  
 香岐  
 引野  
 未勘  
 比多我多磯  
 同  
 人見岡

入月の影やしたひてをのつからひれふる嶺の雲の羽衣  
 逢人もあらしの寒き夕暮に聲のいとなき日くらしの山  
 旅泊夢  
 夜舟こくひゝきの灘の浪枕結びもやらぬ夢そおとろく  
 ひゝのてのあちの村鳥見てそ思ふ旅行我は友なしにして  
 祝言  
 乙女子か袖になつてふ君か代はひさしの山の高き巖を  
 うきめ刈あみのうけ縄引嶋に海人より外は住人もなし  
 影寒て消ぬ氷室の池水は夏の夜渡る月や守らん  
 雲深き屏風か嵩に入人はをこなふ法やしるへなるらむ「元ウ  
 独のみひはらの嶺を越る日は鳩の聲よりしる物はなし  
 夕塩の引津の浮藻うき物は我のみならて世にやたゝよふ  
 歳暮  
 かはかりの名残そ惜き一夜川なかるゝ年に氷る瀬もかな  
 松浦川水底清み住魚のひれふる山の影もうつりて  
 隠れぬと思ひな果そ菱の池に花咲みなる折もこそあれ  
 くるとも人はしらしな忍びく引野ゝつゝら末や頼まん  
 ひたかたの磯のあま人明暮にたか為ならぬうきめかるらし  
 忍待戀  
 つれなさは解ても忍ふ中なれば人見の岡のまつよ積れる

一五五  
 一五六  
 一五七  
 一五八  
 一五九  
 一五〇  
 一五一  
 一五二  
 一五三  
 一五四  
 一五五  
 一五六  
 一五七  
 一五八  
 一五九  
 一五〇



木曾の梯  
御調物千船塩  
ころ舟にるふ人  
み熊野紀路  
浦のしらゆふ三元ワ

未勅  
紅葉洞  
藻塩浦

静なる紅葉の洞の秋の空誰我宿の月と見るらん  
風吹はなひく物とも人や見んもしほの浦の烟たにたて

一五八  
一五九

△心つくしわかか浦

山嶽

水邊夏月

勢

一五〇

△時鳥戀月露

清和井

すゝみとるせかるの水の流れには月もおりたち影ひたすらし

一五一

△秋風鹿しくれ

同 芹生里

珍しと見る程もなく積ぬるせれうの里にふれる白雪

一五二

△木からし松

同 芹河

春くれば摘人おほき芹川のあたりに田鶴やあさり兼つる

一五三

△夕煙戀月

同 芹川

御幸するけふの狩場に古へも汲て知るゝせり川の水

一五四

△大原水鳥鳴

同 瀬見小川

夏来ては木々におりはへ鳴そふや蟬の小河の清き瀬の声

一五五

△岩草納涼

同 禪林

散乱る心もけふはしつか成林の庭に咲花を見て

一五六

△大原雪草の庵

同 石花海

せの海をつゝめるふしか我戀のつきぬ涙とむねの煙は

一五七

△旗の炭かま月

同 勢奈川

くたかけの鳴て別や惜むらんたかせな川の明ほのゝ空

一五八

△竹田の早苗

同 関川

みおはやみ流るゝ影も留えぬ関の小河の夏のよの月

一五九

△さかの山千代の古

同 關寺

法に今あふ坂山の関寺に心とゝめよゆくも帰るも

一六〇

△若な御狩御幸袖

同 勢田長橋

打渡す末は霞に埋れてきゝしに替るせたの長橋

一六一

△野への古道春雨

同 関山

郭公それと聞て関山の杉の木陰を過かてにする

一六二

△石川いくしたて

同 関原

絶す世に仕ふる道を法に入身になさはやな関の藤川

一六三

△神御歌雪札

同 関原

関か原に往來の人をとむれ共さにもくからぬ鶯の聲

一六四

△加茂みたらし

同 関原

関か原に往來の人をとむれ共さにもくからぬ鶯の聲

一六五

△郭公虫の音

同 関原

関か原に往來の人をとむれ共さにもくからぬ鶯の聲

一六六

△尾上の鹿三〇

同 関原

関か原に往來の人をとむれ共さにもくからぬ鶯の聲

一六七

△つゝめる海

同 関原

関か原に往來の人をとむれ共さにもくからぬ鶯の聲

一六八

△富士川

同 関原

関か原に往來の人をとむれ共さにもくからぬ鶯の聲

一六九

△早瀬行水

同 関原

関か原に往來の人をとむれ共さにもくからぬ鶯の聲

一七〇

△音羽山もみぢ

同 関原

関か原に往來の人をとむれ共さにもくからぬ鶯の聲

一七一

△清水月あふ坂

同 関原

関か原に往來の人をとむれ共さにもくからぬ鶯の聲

一七二

△花の白波早苗

同 関原

関か原に往來の人をとむれ共さにもくからぬ鶯の聲

一七三

△往來をとむる

同 関原

関か原に往來の人をとむれ共さにもくからぬ鶯の聲

一七四

△六の道

同 関原

関か原に往來の人をとむれ共さにもくからぬ鶯の聲

一七五

△東道栗津

同 関原

関か原に往來の人をとむれ共さにもくからぬ鶯の聲

一七六

△東路駒霧やな

同 関原

関か原に往來の人をとむれ共さにもくからぬ鶯の聲

一七七

△矢橋水鳥霜旅

同 関原

関か原に往來の人をとむれ共さにもくからぬ鶯の聲

一七八



散やすき陰も盛の久しきは紅葉や風にしなふせの山  
時鳥まれに鳴音を遠近に吹たにをくれ関のうら風

世のうきにすくなみ神の作らすはいかてしつけき山にすまゝし」言ウ

一五六四

一五六五

一五六六

一五六

一五六八

一五六九

1470

一五七一

1441

一五九三

一、四、五

1575

一五七六

1577

1578

一五七九

一五八〇



續松葉集第三  
(題箋)

十一	九	七	五	三	一
神祇	哀傷	誹諧	戀部	秋部	春部

十二	十	八	六	四	二
賀	釋教	旅部	雜部	冬部	夏部

レ  
ウ

レ  
オ